

2025 年度

お茶の水女子大学大学院

人間文化創成科学研究科（博士後期課程）

進学者選考要項

〔注〕生活工学共同専攻進学者は、「生活工学共同専攻学生募集要項」を参照してください。



お茶の水女子大学

Ochanomizu University

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03(5978)5697

HP <https://www.ao.ocha.ac.jp/>

※試験期日は社会情勢により、急きよ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらかじめ通知します。随時、ホームページで最新情報を確認してください。

(注) お茶の水女子大学博士前期課程から引き続き
学内進学する者は、留学生も含めて「進学者選考要項」
で出願すること。ただし生活工学共同専攻への進学
を志望する者は、「生活工学共同専攻学生募集要項」
(別冊子) で出願すること。

目 次

I. 専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
比較社会文化学専攻	
人間発達科学専攻	
ジェンダー学際研究専攻	
ライフサイエンス専攻	
理学専攻	
II. 学生募集日程等	
1. 専攻・領域及び募集人員	5
2. 試験 期 日	5
3. 出 願 資 格	5
4. 出 願 期 間	5
5. 出 願 方 法	5
6. 受験上・修学上の配慮の事前相談について	5
7. 選 考 方 法	6
8. 試 験 場 所	6
9. 10月進学について	6
10. 合 格 発 表	6
11. 進 学 時 期	6
12. 検定料、入学料及び授業料	6
13. 注 意 事 項	6
14. 進学手続関係案内	7
15. 学生支援について	7
16. 長期履修学生制度について	7
17. Global Students Course について	7
18. 個人情報及び試験成績の利用について	7
19. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先	8
III. 選考方法詳細	
【全専攻共通】	
1. 出 願 書 類	9
2. 試 験 科 目	10
3. 試 験 日 程	10
4. 口 述 試 験 要 領	10
【各専攻詳細】	
比較社会文化学専攻	10
人間発達科学専攻	10
ジェンダー学際研究専攻	11
ライフサイエンス専攻	11
理学専攻	12
IV. 担当教員及び主な授業科目	13
本学所定用紙（出願書類）	
・ 進学願書・写真票・受験票	
・ 推薦書	

I. 専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

※生活工学共同専攻の概要及び入学者受入方針については、生活工学共同専攻学生募集要項を参照してください。

1. 目的

博士後期課程は、高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻	比較社会文化学専攻	人間発達科学専攻	ジェンダー学際研究専攻	ライフサイエンス専攻	理学専攻
入学定員	27	14	4	13	13

※生活工学共同専攻については、入学定員2名です。

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学、生活科学の博士の学位である。
専攻分野に応じて、学位が授与される。

6. 各専攻・領域の要旨及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

◎ 比較社会文化学専攻

比較社会文化学専攻では、社会と文化に関する高度に学際的かつ総合的な専門研究を行うことを通じて、人間文化の基礎理論の確立を目指している。また、国際的視野の中で日本研究を推進し、総合学としての日本学を世界に発信していくことを企図している。

本専攻では、こうした目的に即しつつ自立的に研究を行うことに強い自覚をもった人材を求めており、特に以下の2点を、前提として強調しておきたい。

1. 資料や文献を読解するため、また、国際的な研究交流を遂行するために必要な語学力を有していること。
2. 日本を含む世界各地の過去もしくは現在の社会構造等、アジア・欧米の言語・文学・思想等、日本を含む世界各地の芸術作品・芸術活動等のいずれかの分野において、上記の研究の基礎となり得る知識と研究能力を有していること。

領域	要旨
国際日本学	国際日本学領域は、本学の戦略的研究・教育領域として位置づけられており、国際的に多様化する大学院教育の現状に対応して、国際的視野のなかで日本研究を進め、文学・言語学・歴史学・思想・文化・身体論の総合学としての日本学を世界に発信する人材を養成することにより、日本研究における世界の教育拠点となることを目標としている。 本領域に進学する学生には、それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえた日本に関する学際的な関心の涵養と、総合的な知識の蓄積、さらに研究交流への積極的な参加や、そうした活動の基礎となる外国語能力の向上による国際性の養成にも留意して、研究を進めていくことが期待される。
言語文化論	アジア、欧米を中心とする各国文学・言語学・言語教育学の専門知識を深め、高度な研究を行う。必要に応じて領域横断的な研究視点を採り入れるとともに、言語の研究、言語を介した文学・文化の研究における新たな知見を国際的に発信する能力を養う。専門的な研究を行うために必要な高度な語学力を有し、言語芸術あるいは言語そのものに関する幅広い知識と、独創的・多角的な観点から研究を行う能力を持ち、研究者として国際的に活躍することを目指す意欲的な学生を求めている。

比較社会論	哲学思想・歴史からスポーツまでを対象に、過去の思想・歴史を踏まえつつ、日本・アジア・欧米・イスラムの諸地域を相互に比較横断する研究を推し進める領域である。社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を進めていくことが期待される。
表象芸術論	美術・工芸・服飾・舞踊・音楽を主な対象とし、文化表象・表現を多方面から、舞踊・音楽においては実践と理論の融合を図りつつ、専門的かつ横断的に批判的分析・追究する領域である。表象芸術に関する幅広い知見と専門知識、独創的な分析力をもち、表象芸術論を人間理解・国際協力の強力な媒介として社会に提言することに意欲をもった学生を求める。

◎ 人間発達科学専攻

人間発達科学専攻は、人間の生涯にわたる発達と社会環境にかかわる広いテーマに関連する高度の専門研究を進める女性研究者となる人を育てている。人間の発達、環境、教育、生活などの領域について、日本や世界の、過去から現在、あるいは21世紀への諸問題の解決に意欲を持つ学生の入学を期待する。後期課程3年間で博士論文を完成できることが期待される。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への論文の投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果をあげることが求められる。まず、優れた修士論文を完成させること。入学試験では、修士論文の質と、今後の研究計画が明確かどうかを審査する。研究指導を受けたいと考える教員に事前に相談すること。意欲的な学生の皆さんの応募を期待する。

領域	要 旨
教育科学	人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程・教育方法論、教育開発論、教育心理学、特別支援教育論を設置する。本領域では、人間の発達について教育科学的に考えることのできる研究者および研究者的な視点をもつ実践者の育成をめざしている。本領域は、人間の発達に深い関心を持ち、自身の専門とする領域の研究方法に通暁した学生の入学を希望する。
心理学	心理学領域では、人間の心理を、脳を核として、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「発達心理学先端研究」「認知科学論」「メディア心理学」「健康行動論」「教育心理学研究」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本領域の目的である。心理学の研究者や専門職となることを希望する学生を期待する。すでに心理学の基礎的・応用的方法論や統計的手法を習得していること、英文で学術論文を作成する力を求める。広い分野への関心を期待しつつ、「発達心理学」「認知心理学」「社会心理学」「臨床心理学／健康心理学」「教育心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすすめる意欲のある学生を求める。
発達臨床心理学	発達臨床心理学の教育および研究を行う。臨床心理学を柱として、家庭、教育、医療、福祉、司法、産業等のさまざまな場における心理臨床的、発達の課題について専門的に対処する力を養成するとともに発達臨床心理学の研究を行う高度な研究能力を養う。臨床心理学の研究者および専門職となることを希望する学生を求める。すでに臨床心理学の基礎的・応用的方法論や、統計的手法を習得していることが必要である。
社会学・社会政策	本領域では、社会学を中心に、経済学、法学などを含む社会科学を基礎学問として、人間、社会、文化にかかわる諸現象を探究する。社会科学研究において、理論と実証を統合するだけでなく、実践との密接な結びつきを意識して、政策科学的な研究として発展させることをも重視する。よって、入学を希望する者には、社会科学のいずれかの分野における堅実な基礎的教養を備えていること、理論的な問題関心とそれに取り組むための経験的研究方法への関心の双方を有していること、そしてその研究が学術的および社会的・実践的にどのような意義と可能性を持つのかについて説得的に説明できることが求められる。
保育・児童学	保育・子育て等の現場で生じている多様な問題を、多角的に分析・理解し、問題解決を図ることのできる高度な専門的知識と実践能力を備えた人材を育成することが目的である。具体的には、乳幼児期以降の保育・幼児教育、発達支援、子育て支援、0歳から就学期・児童期を見通した接続的教育等を研究する研究者、専門職業人を養成する。入学を希望する者には、子どもをとりまく多様な実践的・社会的課題に取り組む意欲をもち、分析的・科学的にアプローチするための理論および研究方法論を習得していることが求められる。

◎ ジェンダー学際研究専攻

家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、法政策、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、福祉、医療など、幅広い研究対象についてジェンダー視点を中心とした研究に関心を持ち、これらに関する諸問題の解決に意欲を持つ方の入学を歓迎する。

入学には、社会科学、人文科学等の学問領域での優れた修士論文またはそれに代わるものを完成させていることが必要である。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果を挙げることが求められ、3年間で博士論文を完成することが期待される。研究指導を受けたいと考える教員に必ず事前に相談をすること。

なお、本専攻において取得できる学位は、学術、人文科学、社会科学、生活科学である。

領 域	要 旨
ジェンダー論	ジェンダーを中心とした理論的検討、実証的・政策的課題を探究する。ジェンダー視点を中心にした分析は、家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、医療など、あらゆる政策分野において必要とされている。学問領域を超えたジェンダー課題群を中心に、主体的に取り組む人材の育成をめざす。本領域の志願者には、学際的・国際的な視野に立ってジェンダーの視点を中心に研究を推進する意欲と専門的知識をもつことが求められる。

◎ ライフサイエンス専攻

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス全般の発展に寄与するため、「生命科学」、「生活科学」という学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉える。そのため、生命科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域を設置する。本専攻ではライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解でき、ライフサイエンス分野の研究者として自立できる、また指導的役割を担う人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、ライフサイエンスに関する課題を設定し、実験・調査を主体とする研究計画を作成、実施し、その結果を公表することが求められる。そのため、研究に対する強い自覚と意欲を持った上で、データ調査分析能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、発表能力等が求められる。

領 域	要 旨
生 命 科 学	本領域では、高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する研究を主体的に行える人材を育成することを目指している。このことを踏まえ、人材の選考にあたって、以下の基礎知識と技術を求める。 <ol style="list-style-type: none"> 1 生命科学に関する研究への関心と、生命科学の諸問題の解決に対する強い意欲。 2 生命科学に関する修士号相当の基礎的な知識、実験解析法、統計的解析法。 3 生命科学に関する研究成果の論理的、体系的な記載と、研究成果の発表を実施する力。
食 品 栄 養 科 学	本領域では、食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析・解決する。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までできる食と栄養のスペシャリストの育成をめざす。学生には、食品の品質、機能、嗜好性、安全性、健康や疾病と食品・栄養との関連、といった食を取りまく諸問題について深い興味を持ち、研究・実験に対し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を求める。また有機化学、生化学、分子・細胞生物学、疫学などの基本的な知識を有し、これらの知識を用いて専門的・先端的研究を行う意欲が必要である。
遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ	遺伝カウンセリング学は遺伝医学の発達に伴って誕生した学際的な学問で、人類遺伝学、遺伝医学、カウンセリング、生命倫理と幅広い領域と連携しながら独自の学問体系を構築している。遺伝カウンセリングは、遺伝に関する課題を抱えた人達に対する心理社会的支援であるが、その支援には正確かつ最新の遺伝学的情報を提供することも含まれる。したがって、遺伝カウンセリング学分野における探究および遺伝カウンセリングの指導においては、遺伝学の知識を利用できるだけでなく、遺伝カウンセリングを実践するための技術や対人援助職および教育者としての態度面の理解が必須である。 本領域では遺伝カウンセリング学の発展的な知識と実践技術を習得し、省察的实践者としての態度を学ぶと同時に、研究者としての指導能力を身につけるための教育を行なう。 本領域の志願者には、基本的な遺伝カウンセリング学を修得していることが求められ、さらに対人援助職および教育者としての人格・態度、研究者としての探究心が求められる。

◎ 理学専攻

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、新しい科学の創成を目指しつつ次世代を担う人材を養成することを目的としている。研究に必要な基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度専門技術者を目指す女性はもちろんのこと、社会人としての基盤を保ちながらより高度な専門的能力の開発を望む方や独自のライフスタイルで学問を究めることを志す女性を広く求めたい。

領 域	要 旨
数 学	代数、解析、幾何の純粋数学各分野における高度に専門的な教育研究並びに数理的方法論を適用する応用数学分野における専門的な教育研究を行い、自立して研究活動を行いうる能力、数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標とする。この教育目標に沿って、確かな数学の力の上に、自ら課題を見出し自ら解決の方向性を探る自立した研究者となろうという志をもち、自己の専門分野のみならず隣接分野や新しい分野、課題も積極的に学ぼうという姿勢をもった学生を受け入れる方針である。
物 理 科 学	物理学の各分野及び他領域との隣接分野における最先端の研究を通して、それぞれの分野において高度な専門性を有し研究者としての素養を身につけた人材を育成するための教育を行っている。物理学の各分野における十分な基礎学力を有するとともに、将来、研究者として自立し、国際的な視野をもって指導的役割を果たす人物になろうとする自覚と意欲をもった学生を求めている
化学・生物化学	物質を構成する広範な有機・無機分子、金属錯体及び分子集合体、さらに生体を構成する生体関連分子、蛋白質や糖などを対象に、物質科学、材料科学、物質創成科学、複雑系科学及び生命科学などの諸分野に広がる教育研究を行う。諸現象を原子・分子レベルから解明する意欲と学際領域への興味をもち、国際的視野を拡げつつ、研究における創造性と自立性を高める努力を惜しまない人を歓迎する。
情 報 科 学	情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が、互いに連携しつつ研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにする。すなわち、次世代情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれる様々な情報の利用・解析手法を研究する。これに共感する人達を経歴を問わず広く受け入れている。

Ⅱ. 学生募集日程等

1. 専攻・領域及び募集人員

専攻	領域	9月入試	3月入試	募集人員(注)	
				一般	留学生
比較社会文化学専攻	国際日本学領域、言語文化論領域、比較社会論領域 表象芸術論領域	×	○	27名	若干名
人間発達科学専攻	教育科学領域、心理学領域、発達臨床心理学領域 社会学・社会政策領域、保育・児童学領域	×	○	14名	若干名
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー論領域	×	○	4名	若干名
ライフサイエンス専攻	生命科学領域、食品栄養科学領域 遺伝カウンセリング領域	○	○	13名	若干名
理学専攻	数学領域、物理学領域、化学・生物化学領域 情報科学領域	○	○	13名	若干名

(注) 募集人員(一般と留学生)には、進学者選考以外の一般入試と外国人留学生入試それぞれの募集人員を含む。

※「生活工学共同専攻」の入試については、「生活工学共同専攻学生募集要項」を参照してください。

2. 試験期日

9月入試	2024年9月9日(月)
3月入試	2025年3月3日(月)・4日(火)

※ 試験期日は社会情勢により、急きょ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらためて通知します。随時、ホームページで最新情報を確認してください。

3. 出願資格

- 比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻、ジェンダー学際研究専攻
4月進学： 本学大学院(博士前期課程)を2024年9月修了した者及び2025年3月修了見込の者。
- ライフサイエンス専攻、理学専攻
10月進学： 本学大学院(博士前期課程)を2024年3月修了した者及び2024年9月修了見込の者。
ただし、ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリング領域を除く。
4月進学： 本学大学院(博士前期課程)を2024年9月修了した者(9月入試を受験する場合は9月修了見込の者)及び2025年3月修了見込の者。

4. 出願期間

9月入試	2024年7月22日(月)～24日(水)【必着】
※	ただし、7月23日(火)の日本国内の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。
3月入試	2024年12月23日(月)～25日(水)【必着】
※	ただし、12月24日(火)の日本国内の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。

5. 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、書留速達で郵送すること。郵送等以外は受け付けないので注意すること。
なお、論文等が封筒に入りきらない場合には、「書留速達小包」として送っても差し支えない。大学窓口では直接受け付けないので注意すること。

受験票は口述試験要領・日程案内等を同封の上、後日送付する。試験日の7日前までに、郵送予定。また、この受験票は入学手続の際にも必要となるので、紛失しないように注意すること。

6. 受験上・修学上の配慮の事前相談について

- 心身に障がいあるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする者(点字又は代筆による解答を希望する者を含む)については、本学入試課へ申し出てください、入試の出願1ヶ月前(9月入試：2024年6月28日(金)、2月入試：2024年11月22日(金))までに「受験上の配慮事前相談申請書」「医師の診断書」等をご提出ください。なお、受験上の配慮を講じる必要はないまでも、修学上の不安等を感じる者も、同様に申し出てください。また、出願後に不慮の事故等により、同様に受験上及び修学上の配慮を希望するに至った場合には、直ちに入試課へ申し出の上相談してください。

- (2) 本学の「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションから、自身の性自認にもとづき、女子大学で学ぶことを希望する者を2024年4月入学者から受け入れております。戸籍又はパスポートの性別と性自認が異なっている者については、入学後の学生生活をサポートするために、通称名や更衣室の使用などについて、あらかじめ情報を提供したいと考えていますので、入試の出願1ヶ月前(9月入試：2024年5月31日(金)、3月入試：2024年10月25日(金))までに必ず入試課に申し出てください。その際に、本学に正規生として在学中の学生は「出願申出書」と学生証の写しを提出してください。申し出によって、合否判定の際に不利に取り扱われることはありません。

7. 選考方法

学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。
詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

8. 試験場所 お茶の水女子大学

9. 10月進学について

次の専攻・領域について10月進学(進学時期：2024年10月)を希望する者は、2024年9月入試時に出願することができる。希望する場合は、進学願書、写真票及び受験票の進学希望時期欄の「2024年10月」にチェックすること。進学を許可された後で、4月進学に変更はできないので注意すること。
ただし、10月進学の場合は、2024年度の専攻・領域に所属し、2024年度の授業科目を履修することになるので、注意すること。また、志望教員には、事前に連絡をとること。

- ライフサイエンス専攻 生命科学領域、食品栄養科学領域
○理学専攻 全領域

10. 合格発表

9月入試	2024年9月13日(金)	12時
3月入試	2025年3月10日(月)	17時

- (1) 「本学南門掲示板」に合格者の受験番号を掲示する。
(2) 合格者には、発表当日、宛名票(出願書類)の住所に合格通知書を郵送する。
なお、入試ホームページにも合格者の受験番号を掲載する予定。
入試ホームページURL <https://www.ao.ocha.ac.jp/>
(注) 電話等による合否の問い合わせには応じない。

11. 進学時期

2025年4月(2024年10月進学者を除く。)

12. 検定料、入学料及び授業料

- (1) 検定料及び入学料は、不要です。
(2) (i) 2025年4月進学者
授業料 半期分 267,900円 (年額 535,800円) (予定額)
(ii) 2024年10月進学者
授業料 半期分 267,900円 (年額 535,800円)

(注) 進学時及び在学時に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。

13. 注意事項

- (1) 提出された書類に不備がある場合には、受理しない。また出願受理後は、いかなる事情があっても、出願書類等の変更・返却の請求には応じない。
(2) 出願について、不明な点がある場合には、入試課(p.8の問い合わせ先)に問い合わせること。
(3) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。
(4) 受験票は、進学手続(合格者)の際にも必要となるので、紛失しないように注意すること。
(5) 出願後受験を辞退する場合や、合格後進学を辞退する場合には、すみやかにその旨連絡のこと。
(6) 2つ以上の専攻に記載されている教員を指導教員にする場合には入試課に問い合わせること。

14. 進学手続関係案内

9月入試： 2025年2月中旬頃に郵送する。
ただし、10月進学者は、合格通知書に同封する。

3月入試： 合格通知書に同封する。

※ 合格通知後、住所を変更した場合は必ず入試課へ届け出ること。

※ 進学手続関係書類の中で、進学手続期間には注意すること。合格発表から進学手続までの期間と手続期間ともに短期間となるので特に注意すること。このため、16.に記載する長期履修学生制度を申請する場合は必ず事前に相談すること。

15. 学生支援について

奨学金は、本学独自の奨学金として、大学院博士後期課程研究奨励賞（予約型奨学金、学内進学者対象）と育児支援奨学金があります。

大学院博士後期課程研究奨励賞は、進学を希望する本学博士前期課程学生に対し、進学後の研究支援を行うことを目的とする制度で、入学決定前に申請し採用（内定）となった場合には、入学後に奨学金を受け取ることができます。

育児支援奨学金は、本学に設置された保育所を利用する学生に対し、保育料の一部を援助するものです。

さらに経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者に対し、選考の上、授業料の全額又は半額を免除、あるいは徴収を猶予する制度があります。

その他日本学生支援機構による奨学金、民間の法人や団体からの奨学金等、学生支援に関する詳細は、本学ホームページを参照してください。

○入学料及び授業料の免除・徴収猶予制度について

<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/info/exemption.html>

○奨学金について

<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/about.html>

○学生寮について

<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/lodgings/index.html>

不明な点については、本学学生・キャリア支援課（下記）にお問い合わせください。

入学料及び授業料免除、学生寮担当 TEL 03-5978-2646, E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp

奨学金担当 TEL 03-5978-5148, E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp

ただし、外国人留学生の奨学金については、国際課（下記）に照会してください。

留学生奨学金担当 TEL 03-5978-5143, E-mail ryunai@cc.ocha.ac.jp

16. 長期履修学生制度について

職業を有する等の事情により、一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られ、標準修業年限で修了することが困難な学生を対象として、長期履修学生制度を導入しています。そうした事情にある者は、3年間で設定されている修業年限を4年間から6年間で履修し、課程を修了することを認められることがあります。（全ての申請者が適用を受けられる訳ではなく、制度の趣旨に沿っているかを学内の委員会が審査し、適用の可否を決定します。）「職業を有する等」とは、有職者（正規雇用、臨時雇用（パートタイムなど正規に近い勤務時間の者）、自営業等）、家事、育児、介護、障がい等の事情にあることをいいます。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、「定められた授業料の年額」に「標準修業年限」を乗じて得た額を「許可された修業年限」で除して得られた額となります。

長期履修を希望する者は、入学手続期間内に申請書類を提出してください。不明な点については、本学学務課大学院担当（TEL 03-5978-5821, E-mail daigakuin@cc.ocha.ac.jp）にお問い合わせください。

17. Global Students Course について

2020年4月入学者より、英語による入学者選抜、入学後の講義受講、論文指導及び学位取得を可能とする Global Students Course を設けています。本 Course 担当教員について、p.13「IV. 担当教員及び主な授業科目」一覧で確認してください。また、本 Course 受験希望者は、事前に入試課（問い合わせ先は次頁19.）にご連絡ください。また、進学願書の該当欄にチェックしてください。

18. 個人情報及び試験成績の利用について

- (1) 個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則」に基づいて適切に取り扱います。
- (2) 大学が取得した氏名、住所、成績及び学修状況等の個人情報は、入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金の選考等）及び授業料等に関する業務を行う為に必要な範囲内で利用します。
- (3) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試の改善や志願動向の調査・分析及びこれらに付随する業務を行うために必要な範囲内で利用します。調査・分析等結果の発表に際しては個人が特定できないように処理します。
- (4) お茶の水女子大学は、「個人情報の保護に関する法律」に規定されている場合を除き、本人の同意を得ることなく今回入手した個人情報を他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

19. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 入試課

〒112-8610 東京都文京区大塚 2丁目1番1号

TEL (03) 5978-5697 (土日祝日、年末年始を除く平日9時～17時受付)

E-MAIL nyushi@cc.ocha.ac.jp

Ⅲ. 選考方法詳細

【全専攻共通】

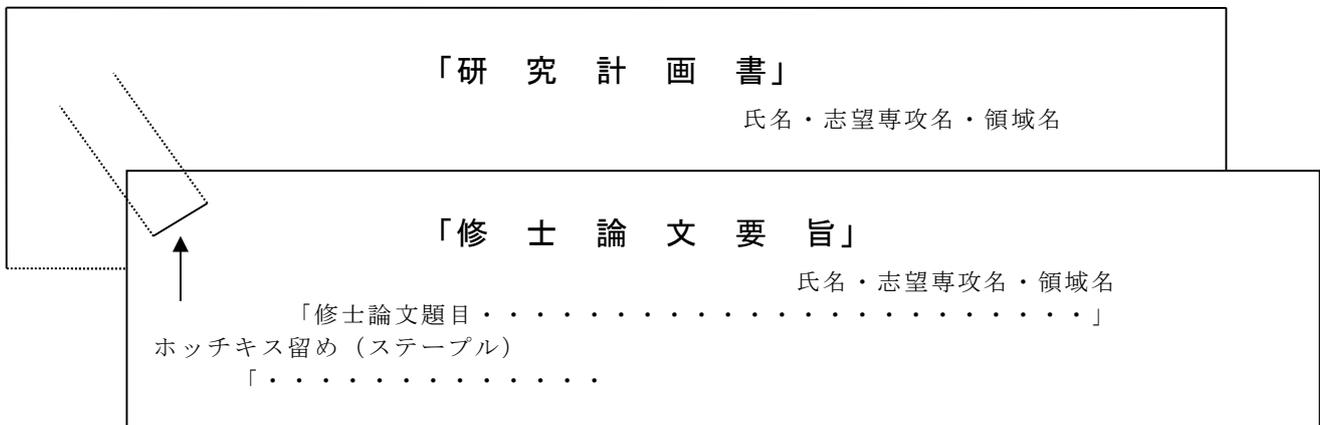
1. 出願書類（6 は、外国人留学生のみ提出）

1	進 学 願 書 受 験 票 写 真 票	本学所定の用紙 4.5 cm×3.5 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付。 受験票は入学手続の際にも必要となる。
2	修 士 論 文 等 (注1)	2部 ※各専攻ごとの詳細参照のこと。 提出論文は、試験終了時に返却する。
3	修士論文等の要旨	6部 ※各専攻ごとの詳細参照のこと。 指示事項に沿っていれば、用紙の縦方向・横方向、罫紙・白地の別は自由。
4	研 究 計 画 書	6部 比較社会文化学専攻・人間発達科学専攻・ジェンダー学際研究専攻は、日本語1,000字前後、横書き、A4判用紙2枚以内におさめること。 ライフサイエンス専攻・理学専攻は、日本語1,000字前後、又は英語400語程度で、A4判用紙2枚以内におさめること。なお、グローバル理工学副専攻履修学生は、主専攻で取り組む予定の研究内容について提出すること。
5	成 績 証 明 書	博士前期課程のもの（コピー不可）。
6	住 民 票 の 写 し (外国人留学生のみ)	市区町村発行で <u>在留資格が記載</u> されたもの。
7	返 信 用 封 筒	本学所定の封筒に宛名を明記し9月入試は444円分の切手（定形郵便94円+簡易書留350円）、郵便料金改定後の3月入試は460円分の切手を貼付すること。 ※ <u>日本国内の住所を記入すること。</u> ※後日、受験票と口述試験日程等を試験日の7日前までに届くように郵送予定。
8	宛 名 票	合格通知に必要なので、確実に連絡が取れる住所を記入すること。

(注1) 修了見込の学生の論文提出期限については、【各専攻詳細】を参照すること。

(注2) これらの書類の他に、指導教員又はそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

(注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組にして左肩を重ねてホッチキス留め（ステープル）すること。



(注4) Global Students Course を希望する受験者は、TOEFL のスコア票又は IELTS の成績証明書を提出すること。受験日が本学入学試験日からさかのぼって2年以内を有効とする。

2. 試験科目： 口述試験（主論文及び研究計画）

3. 試験日程

9月入試

	2024年9月9日（月）
口述試験	10時00分～19時10分

3月入試

	2025年3月3日（月）	2025年3月4日（火）
口述試験	13時00分～18時40分	10時00分～19時10分

※ 口述試験はこの内の40分間であり、個人の日時については受験票送付の際、あわせて通知する。

4. 口述試験要領

- 口述試験は、本学で指定する日時とし、願書受理後、受験票と一緒に口述試験日程案内を送付する。
- 試験において、修士論文（又はそれに代わるもの）及び研究計画の内容・意義について比較社会文化学専攻は10分程度、人間発達科学専攻・ジェンダー学際研究専攻・ライフサイエンス専攻・理学専攻は15分程度の説明を求められる。グローバル理工学副専攻履修学生については、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに、「PBTS-I」の成果及び主専攻で取り組む研究計画の内容・意義について15分程度の説明を求められる。
- 使用機器はノートパソコンを除き試験室に用意するので、機器を使用する者は、願書中の「口述試験使用機器」欄の使用機器に○を付けること。出願受理後の変更には応じられないので注意すること。
貸出する機器はOHC、PCプロジェクター、CDプレーヤー（カセットテープレコーダー兼用）とする。ノートパソコンの貸出はしないので、持参すること。なお、PCプロジェクターはMacPCとの接続には適合していないため、変換アダプタを持参すること。機器を使用する者は、うまく投影できない場合等に備えて、内容をプリントアウトし、配付用に4部持参すること。
- 口述試験終了後、試験担当教員から修士論文を返却される。

【各専攻詳細】

※ 出願書類の内、2. 修士論文等、3. 修士論文等の要旨について

比較社会文化学専攻

修士論文等 2部
ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれらを添付することができる。（各2部） ※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部）
修士論文（主論文）の要旨 6部
2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。

（注1） 3月入試出願に際し、出願期間以降（2024年12月25日（水）以降）に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2025年1月17日（金）【必着、ただし1月16日（木）の消印は受理】までに書留速達で提出すること。

（注2） 出願に際しては、指導を志望する教員の専門と合致しているか、あらかじめ確かめておくことができる。

人間発達科学専攻

修士論文等 2部
ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれらを添付することができる。（各2部） ※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部）

修士論文（主論文）の要旨 6部
2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。

（注1） 3月入試出願に際し、出願期間以降（2024年12月25日（水）以降）に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2025年1月17日（金）【必着、ただし1月16日（木）の消印は受理】までに書留速達で提出すること。

（注2） 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、人間発達科学専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

ジェンダー学際研究専攻

修士論文等 2部
ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれらを添付することができる。（各2部）
修士論文（主論文）の要旨 6部
論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば2,000字以内 英語ならば 800語以内 でA4判用紙3枚以内 （図表を含む）におさめること。

（注1） 3月入試出願に際し、出願期間以降（2024年12月25日（水）以降）に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2025年1月17日（金）【必着、ただし1月16日（木）の消印は受理】までに書留速達で提出すること。

（注2） 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、ジェンダー学際研究専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

ライフサイエンス専攻

A	B
①10月進学を希望する者 ②4月進学希望者で、3月入試を受験する者	③4月進学希望者で、9月入試を受験する者
修士論文等 2部	修士論文に代わるもの 6部
ただし、修士論文を補足する論文がある場合は、それらを修士論文に添付すること。（各2部） グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果のそれぞれについて、日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめたもの、あるいは、それに代わるものを6部提出すること。	修士論文として提出する予定の研究内容、（グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果）を 日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめること。（A4判用紙） ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれらを添付することができる。（各2部） ※「修士論文に代わるもの」「研究計画書」の順に1組にして左肩をホッチキス留め（ステーブル）すること。
修士論文（主論文）の要旨 6部	
論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば2,000字程度 英語ならば 800語程度 でA4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。 グローバル理工学副専攻履修学生は、要旨の提出は不要。	

- (注1) 3月入試出願に際し、出願期間以降(2024年12月25日(水)以降)に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2025年1月17日(金)【必着、ただし1月16日(木)の消印は受理】までに書留速達で提出すること。
なお、9月入試出願に際しては、出願者は全員、必要書類を出願期間内に提出すること。
- (注2) 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ問い合わせしておくこと。領域代表教員については、ライフサイエンス専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

理学専攻

A	B
① 10月進学を希望する者 ② 4月進学希望者で、3月入試を受験する者	③ 4月進学希望者で、9月入試を受験する者
修士論文等 2部	修士論文に代わるもの 6部
ただし、修士論文を補足する論文がある場合は、それらを修士論文に添付すること。(各2部) グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果のそれぞれについて、 日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめたもの、あるいは、それに代わるものを6部提出すること。	修士論文として提出する予定の研究内容、(グローバル理工学副専攻履修学生は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果)を 日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめること。(A4判用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれらを添付することができる。(各2部) ※「修士論文に代わるもの」「研究計画書」の順に1組にして左肩をホッチキス留め(ステーブル)すること。
修士論文(主論文)の要旨 6部	
論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば2,000字程度 英語ならば 800語程度 でA4判用紙3枚以内(図表を含む)におさめること。 グローバル理工学副専攻履修学生は、要旨の提出は不要。	

- (注1) 3月入試出願に際し、出願期間以降(2024年12月25日(水)以降)に修士論文の提出締切がある修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は2025年1月17日(金)【必着、ただし1月16日(木)の消印は受理】までに書留速達で提出すること。
なお、9月入試出願に際しては、出願者は全員、必要書類を出願期間内に提出すること。
- (注2) 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ問い合わせしておくこと。領域代表教員については、理学専攻の「担当教員及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

IV. 担当教員及び主な授業科目

2024年6月1日現在

比較社会文化学専攻 Comparative Studies of Societies and Cultures		03-5978- (下記☎参照)	
国際日本学領域 Japanese Studies in a Global Perspective			
担当教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野	
Position	Name	Main Subject	
教授 Professor	浅田 徹 ASADA Toru ☎(5199)	日本中世言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Kamakura and Muromachi Periods	【日本中世文学】平安末期から近世初期までの和歌を中心に、社会の中にシステムとして組み込まれた文芸のありかた（「勅撰和歌集」「歌道家」「古今伝授」等）を考察する。その他諸ジャンルにおける秘伝の成立などに関心を持っている。 e-mail: asada.toru@ocha.ac.jp
教授 Professor	宮内 貴久 MIYAUCHI Takahisa ☎(5797)	日本民俗文化論 Japanese Folk Culture	【日本民俗学・文化人類学】日本の民俗文化、主として建築文化と住生活について関心がある。特に日本における風水の受容について取り組んでいる。また、口頭伝承だけでなく、書籍、出版、読書生活、リテラシーを通して生活文化の中における文字文化の位相についても研究を進めている。 e-mail: miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp
教授 Professor	神田 由築 KANDA Yutsuki ☎(5182)	日本近世史研究 Japanese Modern History	【日本近世史】近世の都市や地域社会の構造を、芸能興行など文化的活動の場という視点から捉え直そうとしている。特に、都市や市場に集まる芸能民や商人、遊女、侠客などの集団に関心がある。 e-mail: kanda.yutsuki@ocha.ac.jp
教授 Professor	水村 真由美 MIZUMURA Mayumi ☎(5264)	舞踊文化分析論 Cultural Analysis of Dancing	【身体運動科学】舞踊を含む身体運動全般を、生理学およびバイオメカニクスの手法により調査している。トレーニングや練習といったくり返しの運動によって、身体諸機能や動作が変容する可能性に関心をもっている。 e-mail: mizumura.mayumi@ocha.ac.jp
教授 Professor	谷口 幸代 TANIGUCHI Sachiyo ☎(5206)	日本近代言語文化論 Japanese Modern Literature and Culture	【日本近代文学】近代の日本文学における日本の古美術の受容とその影響を研究している。特に川端康成の文学における古美術の受容とその変容過程に関心がある。 e-mail: taniguchi.sachiyo@ocha.ac.jp
教授 Professor	宮下 聡子 MIYASHITA Satoko ☎(5167)	文化思想分析論 Japanese Culture and Thought	【倫理学】倫理と心理と宗教の接点を探るというテーマのもと、人間のあり方について人間の内面と超越的次元との関わりにおいて考察している。主として、ユング、フランクフル、フロム、キューブラー＝ロスといった精神科医、心理学者の思想を研究対象としているが、上記のテーマに関わる思想であれば、洋の東西を問わず、研究対象となり得る。 e-mail: miyashita.satoko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	松岡 智之 MATSUOKA Tomoyuki ☎(5200)	日本中古言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Heian Period	【日本中古文学】『源氏物語』をはじめとする物語文学を中心に、中古文学（平安時代の文学）を研究している。言葉相互の関係に着目した作品解説を主眼とし、社会・制度の歴史や仏教思想と文学作品との関係なども追究している。 e-mail: matsuoaka.tomoyuki@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	西川 朋美 NISHIKAWA Tomomi ☎(5334)	第二言語習得論 Second Language Acquisition	【第二言語習得】大人・子どもの第二言語習得のメカニズムの解明を目指すとともに、その研究成果の日本語教育への応用を考える。 e-mail: nishikawa.tomomi@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	竹村 明日香 TAKEMURA Asuka ☎(5203)	日本語分析論 Analysis of Japanese Language	【日本語史】キリシタン資料や方言資料を用いて、日本語の変遷（主に音韻）について研究している。方言では近畿方言で書かれた上方落語を中心に扱い、語彙・文法に関しても考察している。また、中近世の能楽資料にみえる発音指図の記述にも関心がある。 e-mail: takemura.asuka@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	大藪 海 OYABU Umi ☎(5178)	日本中世史研究 Japanese Medieval History	【日本中世史】権力による支配構造の解明に取り組んでいる。朝廷や幕府といった中央権力に限定せず、地域権力も検討の対象とし、中央と地域との繋がりに注目している。 e-mail: oyabu.umi@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	石井 久美子 ISHII Kumiko ☎(5205)	日本語情報論 Information Theory of Japanese Language	【日本語学】近代から現代の日本語の語彙・表記について研究している。特に、外来語の受容と定着の様相に関心を持っている。 e-mail: ishii.kumiko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	理忠 美沙 UMETADA Misa ☎(5782)	日本伝統芸能論 Traditional Performing Arts	【日本近世・近代演劇】河竹黙阿弥を中心に、幕末明治の歌舞伎及びそれと関係する演劇を研究している。 e-mail: umetada.misa@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	藤川 玲満 FUJIKAWA Reman ☎(5202)	日本近世言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Edo Period	【日本近世文学】秋里離島を中心に、近世中後期上方の文学とこれに関わる出版文化について研究している。 e-mail: fujikawa.reman@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	湯川 文彦 YUKAWA Fumihiko ☎(5179)	日本近現代史研究 Study of Modern Japanese History	【日本近現代史】日本の近代国家・社会の形成過程について、政治・外交・法制・教育・警察・司法などの観点から多角的に研究している。とくに明治維新の展開過程について中央・地方双方の視点から分析している。 e-mail: yukawa.fumihiko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	遠藤 みどり ENDO Midori ☎(5183)	日本古代史研究 Japanese Ancient History	【日本古代史】日本古代の天皇制がどのように始まり、続いていくのかについて、キサキや後宮制度、皇太子に注目して研究している。 e-mail: endo.midori@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	李 址遠 LEE Jiwon ☎(5212)	言語コミュニケーション論演習 Seminar: Language and Communication	【言語人類学、社会言語学】語用とコンテクストという二つの概念を軸に社会における言語使用について考察するとともに、言語人類学の理論的視座の言語教育学への応用を考える。 e-mail: lee.jiwon@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor	西坂 祥平 NISHIZAKA Shohei ☎(5213)	日本語教育論 Japanese Language Education	【日本語教育学】第二言語としての日本語の習得と学習について量的かつ質的に分析しながら、日本語教育における指導や支援の在り方を考える。 e-mail: nishizaka.shohei@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor	加藤 夢三 KATO Yumezo ☎(5102)	日本現代言語文化論 Japanese Contemporary Literature and Culture	【日本近代文学】主にモダニズムと呼ばれる戦間期の文学と思想の関わりを研究している。 e-mail: kato.yumezo@ocha.ac.jp
言語文化論領域 Language, Literature, and Culture			
教授 Professor	和田 英信 WADA Hidenobu ☎(5217)	中国言語芸術・批評論 Literary Criticism of China	【中国古典文学】中国の詩と詩論について、とくに文学理論の表現形式に着目したアプローチを模索している。 e-mail: wada.hidenobu@ocha.ac.jp
教授 Professor	野口 徹 NOGUCHI Tohru ☎(5228)	文法理論 Grammatical Theory	【文法理論】生成文法理論に基づき、統語論、意味論、形態論の諸分野の特性及び各部門間の関係を明らかにする。より具体的には、照応の問題を中心的な研究テーマとしている。 e-mail: noguchi.toruh@ocha.ac.jp
教授 Professor	伊藤 さとみ ITO Satomi ☎(5218)	中国語圏言語文化論 Chinese Linguistics	【中国語学】現代中国語の文法を形式言語学の視点から研究している。主なテーマは、疑問詞の照応的用法、形容詞の意味論、選択疑問文の研究など。 e-mail: ito.satomi@ocha.ac.jp
教授 Professor	小松 祐子 KOMATSU Sachiko ☎(5239)	仏語圏文化論 Francophone Cultures	【フランス語圏言語文化研究・フランス語教育学】フランス語圏の言語文化をフランス語の言語政策・教育学とあわせて研究している。近年はとくに北米フランス語圏・ベルギーを中心に研究している。 e-mail: komatsu.sachiko@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 山腰 京子 YAMAKOSHI Kyoko ☎(5224)	第一言語習得論 First Language Acquisition	【第一言語習得】生成文法理論に基づき、主に子供の母語習得の仕組みを探る。主なテーマは疑問文、数量詞、受身と使役など。 e-mail: yamakoshi.kyoko@ocha.ac.jp

(注1) ◎は、2025年度末をもって退職予定であり、○は2026年度末をもって退職予定の教員である。

なお、2024年度末（2025年3月31日付）で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

比較社会文化学専攻 Comparative Studies of Societies and Cultures			
言語文化論領域 Language, Literature, and Culture			
担当	教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野
Position	Name	Main Subject	
教授 Professor	GSC 高桑 晴子 TAKAKUWA Haruko ☎(5227)	イギリス言語文化論 Language and Culture of Britain	【イギリス・アイルランド小説】極めて近代的な文学形態である小説というジャンルを文化的・社会的文脈において分析する。19世紀のイギリスおよびアイルランド小説を主にネイションとジェンダーという文脈で研究中。 e-mail: takakuwa.haruko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC ALLEN David Brian ALLEN David Brian ☎(5229)	第二言語(英語)教育論 Second Language (English) Education Theory	【第二言語習得研究】第二言語の語彙習得における第一言語の影響に関する研究を主とする。第二言語教育とテスト理論に基づいた評価に関する研究。言語テストの波及効果(washback)の研究もおこなっている。 e-mail: allen.david.brian@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC LOWE Robert James LOWE Robert James ** ☎(5226)	英語教育論 English Education Theory	【応用言語学】ネイティブ・スピーカー主義や国際共通語としての英語など、英語教育の批判的視座に関する研究をしている。 e-mail: lowe.robert.james@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	田中 琢三 TANAKA Takuzo ※ ☎(5241)	仏語圏言語芸術論 Literary Art in French-speaking Countries	【フランス近代文学】19世紀末から20世紀初頭のフランス文学と政治の関係、特に小説におけるイデオロギーの表象について研究している。 e-mail: tanaka.takuzo@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	前田 佳一 MAEDA Keiichi ** ☎(5236)	独語圏文化論 Language and Culture of German-speaking Countries	【近現代ドイツ語圏文学】近現代のドイツ語圏文学、特に20世紀オーストリアの文学を中心に研究している。 e-mail: maeda.keiichi@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	橋本 陽介 HASHIMOTO Yosuke ** ☎(5219)	中国近代文学論 Modern Chinese Literature	【中国文学】現代中国語、日本語を中心とした小説言語の文法、文体論など。 e-mail: hashimoto.yosuke@ocha.ac.jp
比較社会論領域 Comparative Social Studies			
教授 Professor	安成 英樹 YASUNARI Hideki ☎(5181)	西洋近世史研究 Studies of Western Modern History	【フランス近世史】絶対王政期のフランス社会をフィールドとして、前近代ヨーロッパの政治的、社会的、国際的な特質を広く考究する。 e-mail: yasunari.hideki@ocha.ac.jp
教授 Professor	新名 謙二 NIINA Kenji ○** ☎(5268)	比較スポーツマネジメント論 Comparative Sports Management	【比較スポーツマネジメント論】スポーツ施設やスポーツ団体におけるマネジメント課題について、地域的比較あるいは時間的比較という視点からの分析を行う。 e-mail: nina.kenji@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	中野 裕考 NAKANO Hiroataka ☎(5165)	基礎概念論 Analytical Studies of Basic Concepts	【西洋近代哲学】カントを中心に、17・18世紀の西洋哲学において、知覚、認識、自己等の主題に関して、現代哲学の源流を探っている。 e-mail: nakano.hiroataka@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	戸川 貴行 TOGAWA Takayuki ☎(5176)	アジア歴史文化研究 Studies on Asian History and Culture	【東アジア古代史研究】漢唐間の中国を中心として、古代東アジアの政治文化、国際秩序等の展開を新たな視点からとらえ直す。 e-mail: togawa.takayuki@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	阿部 尚史 ABE Naofumi ※** ☎(5184)	イスラム歴史文化研究 Studies on Islamic History and Culture	西アジアでもとくにイランに焦点を当て、近世・近代における家族と女性の関係、ムスリム聖者廟、少数派(アルメニア教徒)、及び文化史などを研究している。 e-mail: abe.naofumi@ocha.ac.jp
表象芸術論領域 Arts and Representational Studies			
教授 Professor	小坂 圭太 KOSAKA Keita ☎(5278)	器楽演奏論 Instrumental Music	【ピアノ演奏】ピアノという西欧近代特有の思考を体現するような楽器の演奏を通じ、「古典」の概念の検証を行うと同時に、ほとんど西欧化と同義語になっている今日の文化の「グローバル化」について考察する。 e-mail: kosaka.keit@ocha.ac.jp
教授 Professor	鈴木 禎宏 SUZUKI Sadahiro ☎(5798)	比較文化論 Comparative Study of Culture	【比較文化論】「比較文化論」という方法論を構築する一方で、それを用いた文化的現象の解明を目指す。 e-mail: suzuki.sadahiro@ocha.ac.jp
教授 Professor	井上 登喜子 INOUE Tokiko ☎(5281)	音楽表象論 Musicology, Culture and Representation	【音楽学】近現代の音楽文化形成について、社会的コンテクストのなかで、歴史的研究を行うとともに、国際的かつ時系列のデータベースを構築し、多文化視座での実証研究に取り組んでいる。とくに上演文化、レパートリー形成、音楽活動とジェンダーの問題は、洋の東西を問わず関心をもつ。 e-mail: inoue.tokiko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	中村 美奈子 NAKAMURA Minako ※** ☎(5269)	民族舞踊論 Ethnic Dances	【民族舞踊学】インドネシア(バリ島)の舞踊を中心に、日本を含むアジア地域の民族舞踊の調査・研究を主な領域としている。理論と実践の両面からのアプローチを行い、舞踊記譜法などの分析手法を用いた舞踊の比較分析に関心を持っている。 e-mail: nakamura.minako@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	新實 五穂 NIIMI Iho ☎(5802)	西洋服飾論 Western Dress Cultures	【西洋服飾史】近現代フランスを中心に、服装における社会表象を分析し、着衣行為をめぐる時代の心性を明らかにすることを旨とする。 e-mail: niimi.iho@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	難波 知子 NAMBA Tomoko ☎(5800)	服飾文化資源論 Costume and Cultural Resources	【日本服飾史】特に明治以降の服飾変遷に着目し、洋服の導入・普及とともに生じた和服の再編成・再解釈など、服飾をめぐる近代的な価値観や生活様式の形成を明らかにする。 e-mail: namba.tomoko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	土谷 真紀 TSUCHIYA Maki ☎(5169)	比較芸術論 Comparative Study of Art	【日本美術史】物語絵画、とくに中世から近世初期にかけての物語絵画を中心に、イメージの生成と享受について研究している。 e-mail: tsuchiya.maki@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	岡 千春 OKA Chiharu ** ☎(5756)	臨床舞踊論 Theory of Clinical Dance	【臨床舞踊学】舞踊と社会がつながる場を対象とし、そこでの舞踊の意義および課題について、具体的な事例の質的調査を通して、多角的に考察することを目指す。 e-mail: oka.chiharu@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor	福本 まあや FUKUMOTO Maaya ** ☎(5265)	舞踊表現論 Theory of Dance Expression	【舞踊表現論】舞踊の教育的意義、社会的意義に関する既存の研究に整理・再検討を加え、そこから新たな研究課題と研究方法を創出し、人間と舞踊の関わりを複眼的に考察する。 e-mail: fukumoto.maaya@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor	浅井 佑太 ASAI Yuta ** ☎(5275)	音楽文化論 Cultural Musicology	【音楽学】とりわけ二十世紀以降の作曲家の創作プロセスの研究を行っている。作曲的思考法・音楽語法と創作プロセスの関係性をスケッチ・自筆譜資料をもとに実証的に検証することを目指す。 e-mail: asai.yuta@ocha.ac.jp

(注1) ○は2026年度末をもって退職予定の教員である。
なお、2024年度末(2025年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

人間発達科学専攻 Human Developmental Sciences			
教育科学領域 Educational Sciences			
担当	教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野
Position	Name	Main Subject	
教授 Professor ○	池田 全之 IKEDA Takeyuki ☎(5243)	比較教育思想史論 Philosophy of Education	【教育哲学】18世紀以降のドイツにおける人間形成論、とりわけ、ドイツ観念論や実在哲学やフランクフルト学派の思想を中心に、近代社会と理性の運命、そこから派生する人間的自由の成立条件や美の救済機能の検討を進めている。 e-mail: ikeda.takeyuki@ocha.ac.jp
教授 Professor	浜野 隆 HAMANO Takashi ☎(5248)	国際教育開発論 International Development and Education	【国際教育開発・協力】アジア・アフリカを中心とした発展途上国における教育の現状、国際機関の役割、国際協力のあり方などを具体的に検討している。研究成果を実際の国際協力の実践に活用できるよう、現場との連携を常に念頭においている。 e-mail: hamano.takashi@ocha.ac.jp
教授 Professor	富士原 紀絵 FUJIWARA Kie ☎(5472)	カリキュラム論 Curriculum Studies	【カリキュラム論・教育方法学】近現代日本の学校教育において、公的な教育内容・方法の組織された教育課程と、個々の学校レベルあるいは日々の事業の実践として展開されている教育実践、カリキュラムとの関係について研究を行っている。 e-mail: fujiwara.kie@ocha.ac.jp
教授 Professor	大多和 直樹 OTAWA Naoki ☎(5245)	教育社会学論 Sociology of Education	【教育社会学】学校社会学、中等教育研究(おもに生徒文化論)、メディアと教育、高等教育論(おもに学生文化)などのテーマで実証的研究を行っている。 e-mail: owata.naoki@ocha.ac.jp
※ 心理学領域 Psychology			
教授 Professor	坂元 章 SAKAMOTO Akira ☎(5257)	メディア心理学 Media Psychology	【社会心理学】テレビ、デジタルゲーム、インターネット、スマートフォンなどの電子メディアによって人間の行動や発達にどのような影響があるか、悪影響を避けながらそれらを十分に活用するためにはどのように介入すればよいか。 e-mail: sakamoto.akira@ocha.ac.jp
教授 Professor	大森 美香 OMORI Mika ☎(2561)	健康行動論 Research in Health Behavior	【健康心理学・臨床心理学】心身の健康と心理社会的要因の関連に関する研究を主としている。特に青年期以降の(1)ヘルスリスク行動、健康促進行動、食行動、(2)感情、認知、ストレス、ストレスマネジメントの方法、に関わる問題を扱っている。 e-mail: omori.mika@ocha.ac.jp
教授 Professor	上原 泉 UEHARA Izumi ☎(5259)	発達心理学先端研究 Advanced Studies in Developmental Psychology	【発達心理学】認知発達(言語、記憶、実行機能、感情、遊び、退屈等)、自伝的記憶・ナラティブの生涯発達に関する研究を行っている。皆に共通する発達過程と環境や文化の影響を受けやすい発達過程に関心をもつ。 e-mail: uehara.izumi@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor ※	伊藤 大幸 ITO Hiroyuki ☎(5771)	教育心理学研究 Educational Psychology Research	【発達心理学・教育心理学・心理計量学】広く人の認知・感情の仕組みやその発達の過程、またその研究や解析の方法論に関心を持つ。研究テーマは、①子どもの心の健康やコンピテンスの発達、②発達障害や各種心理特性のアセスメント、③縦断研究のための多変量解析手法など。臨床・教育実践や政策形成をバックアップするエビデンスの創出を志向している。 e-mail: ito.hiroyuki@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	今泉 修 IMAZUMI Shu ☎(5534)	認知科学論 Cognitive Science	【認知心理学・実験心理学】人間の認知や知覚に関する行動実験を用いた研究が専門である。身体運動と認知の相互作用、自己意識や時間知覚や感情や記憶といった認知の諸側面、および認知や知覚の個人差について検討している。 e-mail: imazumi.shu@ocha.ac.jp
発達臨床心理学領域 Developmental and Clinical Psychology			
教授 Professor	石丸 徑一郎 ISHIMARU Keiichiro ☎(5187)	青少年臨床論 Clinical Approach to Adolescence	【臨床心理学】LGBTQとの共生について心理学的に検討している。特に、性別違和の測定、職場や学校での支援、認知行動療法の応用など。 e-mail: ishmaru.keiichiro@ocha.ac.jp
教授 Professor	山田 美穂 YAMADA Miho ☎(5784)	障害臨床論 Developmental Disabilities	【臨床心理学】臨床実践・教育・研究における、身体を通した共感の活用について研究している。特にフォーカシングやダンス/ムーブメントセラピーの技法を用いたアセスメントおよび介入を研究テーマとしている。 e-mail: yamada.miho@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor ※	高橋 哲 TAKAHASHI Masaru ☎(5772)	非行臨床論 Juvenile Delinquency and Clinical Psychology	【犯罪心理学】非行少年や犯罪者に対する心理学的な査定と介入について研究している。特に、①再犯リスクアセスメント、②トラウマと嗜癖的行動、③自傷と他害に関心がある。 e-mail: takahashi.masaru@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	平野 真理 HIRANO Mari ☎(5780)	心理療法論 Systems of psychotherapy	【臨床心理学・パーソナリティ心理学】個人のもつレジリエンス(回復・適応力)を包括的に理解し、その人らしい力を発揮しているためのアセスメント、関係を通した心理支援、ICTを活用した予防的実践などに取り組んでいる。 e-mail: hirano.mari@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor **	砂川 芽吹 SUNAGAWA Mebuki ☎(5266)	コミュニティ心理学特論 Community Psychology	【障害児・者臨床心理学】発達障害のある子ども・人の臨床心理学的支援について研究している。特に、発達障害のある女の子・女性ならではの経験理解と支援に関心を持って取り組んでいる。 e-mail: sunagawa.mebuki@ocha.ac.jp
社会学・社会政策領域 Sociology and Social Policies			
教授 Professor	小谷 眞男 KOTANI Masao ☎(5787)	比較法社会学論 Comparative Studies on Society and Law	【比較法史】<生活>の比較法社会学史・比較法文化史及びトランス・サイエンス論研究。特にイタリアを専門的フィールドとする。 e-mail: kotani.masao@ocha.ac.jp
教授 Professor	大森 正博 OMORI Masahiro ☎(5987)	生活者環境論 Social Science in Human Environments	【公共経済学・医療経済学】医療・介護制度を資源配分、所得分配の観点から分析し、望ましい医療・介護制度のあり方を考える。医療・介護制度の国際比較も行う。 e-mail: omori.masahiro@ocha.ac.jp
教授 Professor ※	杉野 勇 SUGINO Isamu ☎(5171)	社会科学方法論 Social Science Methodology	【理論社会学・社会調査論】紛争や階層についての理論的考察と実証的調査研究、社会科学方法論や社会調査法研究。 e-mail: sugino.isamu@ocha.ac.jp
教授 Professor	西村 純子 NISHIMURA Junko ☎(5788)	家族変容論 Family Sociology	【家族社会学】家族関係の変容とそのダイナミクスに関する実証的研究。特に、仕事と家族生活、子育てに関わる現象についての社会学的研究をおこなっている。 e-mail: nishimura.junko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor **	宝月 理恵 HOGETSU Rie ☎(5172)	歴史社会学 Historical Sociology	【医療社会学・歴史社会学】社会的存在としての人々がどのように健康や病を経験したのか、医学、身体、家族、教育、専門職、ジェンダー等の視点から歴史社会学的研究を行っている。 e-mail: hogetsu.rie@ocha.ac.jp
保育・児童学領域 Child Studies			
教授 Professor ◎	小玉 亮子 KODAMA Ryoko ☎(5342)	教育文化論 Cultural Studies in Education	【比較教育文化論】次世代育成に関わる文化の総体を教育文化ととらえ、幼児教育と家庭教育を中心とした比較教育文化/社会史・子ども社会学的研究を行っている。 e-mail: kodama.ryoko@ocha.ac.jp
教授 Professor ※	刑部 育子 GYOBU Ikuko ☎(5527)	幼児教育論 Early Childhood Education	【幼児教育学・発達心理学】保育・教育実践の現場に関心をもち、学習論・発達論の観点から保育・教育に関する実践的研究を行っている。 e-mail: gyobu.ikuko@ocha.ac.jp
教授 Professor	西 隆大朗 NISHI Ryutarō ☎(5826)	保育関係論 Relations in Early Childhood Care and Education	【保育関係論】保育とは、人と人との関係によって成り立つ営みであり、またその関係は子どもと大人がともに育つ相互的な性質をもっている。こうした保育関係の中に自ら身を置く体験をもとに、保育学・精神分析的な事例研究の方法論を用いた研究を行っている。 e-mail: nishi.ryutarō@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	松島 のり子 MATSUSHIMA Noriko ☎(5253)	保育史論 History of Early Childhood Education and Care	【保育制度・政策史】保育・幼児教育に関する制度・政策の変遷や形成過程、全国的な動向と地域における実態を対象として、歴史研究を行っている。 e-mail: matsushima.noriko@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor **	辻谷 真知子 TSUJITANI Machiko ☎(5270)	保育心理学 Childcare Psychology	【保育学・発達心理学】保育の場での子どもや保育者からみた多様な規範に関心を持ち、目の前の保育実践から学びつつ観察・面接・質問紙調査等の心理学的手法を基盤とした研究を行っている。 e-mail: tsujitani.machiko@ocha.ac.jp

(注1) ◎は、2025年度末をもって退職予定であり、○は2026年度末をもって退職予定の教員である。

なお、2024年度末(2025年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

ジェンダー学際研究専攻 Interdisciplinary Gender Studies		ジェンダー学際研究専攻 Interdisciplinary Gender Studies	
担当教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野	
Position	Name	Main Subject	
教授 Associate Professor ◎	GSC 小林 誠 KOBAYASHI Makoto ☎(5254)	世界政治論 World Politics	【国際政治学、国際関係学】グローバルゼーションによる国際システムの変容を理論的・実証的に研究。特に、非国家アクターが台頭し、地球市民社会が形成され始めて、中央・周辺関係が変化する一方で、新たな暴力の形態が生まれていることに注目。 e-mail: kobayashi.makoto@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 申 琪榮 SHIN Ki-young ☎(5843)	比較政治論 Comparative Politics	【ジェンダーと政治、日韓比較政治、フェミニズム理論】女性運動の日韓比較、ジェンダー・クォーター、ジェンダー主流化政策、Transnational Feminismなど、ジェンダー・フェミニズムの視点から比較政治学の問いに取り組み。 e-mail: shin.kiyoung@ocha.ac.jp
教授 Professor	斎藤 悦子 SAITO Etsuko ☎(5986)	生活経済論特論 Household Economics	【生活経済学、生活経営学】家計、生活時間をジェンダーの視点から分析する。特に雇用労働者世帯を扱い、企業と生活者の関係性に注目している。現在は、生活者が「企業の社会的責任」に関係していくかを検討している。 e-mail: saito.etsuko@ocha.ac.jp
教授 Professor	宮澤 仁 MIYAZAWA Hitoshi ☎(5195)	福祉地理学 Welfare Geography	【都市地理学、福祉地理学、地理情報システム (GIS)】人口減少・少子高齢化に伴う都市・地域の問題を地理情報システムと地域分析手法を用いて分析し、生活・福祉の視点から課題解決に取り組む。 e-mail: miyazawa.hitoshi@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	荒木 美奈子 ARAKI Minako ☎(5190)	国際協力論特論 International Cooperation	【開発研究、アフリカ地域研究】研究関心は、地域研究に基づく開発実践・研究、内発的發展、参加型開発、グローバルゼーションによる地域社会の変容などである。タンザニアを主なフィールドとしている。 e-mail: araki.minako@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	長谷川 直子 HASEGAWA Naoko ☎(5196)	環境地理学 Environmental Geography	【自然地理学・陸水学】気候変動(とくに温暖化)が湖に与える影響の解明。湖へ流入する水の挙動を観測により解明する。環境問題や地理的視点の一般社会への普及の検討。 e-mail: hasegawa.naoko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC デ アウカンタラ マルセロ DE ALCANTARA Marcelo ☎(2084)	比較家族法論 Comparative Family Law	【家族法・比較法】親子法について、特に生殖補助医療に関連して生じた諸問題に関する研究を行っている。日本の家族法と諸外国の家族法との比較研究も行っている。家族法と国際化、家族法とジェンダーの問題にも関心がある。 e-mail: marcelo.de.alcantara@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor ※	GSC 大橋 史恵 OHASHI Fumie ☎(5341)	ジェンダー政治経済学 Gender and Political Economy	移住家事・ケア労働者の就労や生存をめぐる諸課題や彼女たちの社会運動について、主に中国・香港・台湾・日本でフィールドワークをおこないながら研究を進めている。またポスト冷戦期東アジアのジェンダー秩序や、そのなかで生起するトランスナショナルなフェミニズム運動にも関心をもっている。 e-mail: ohashi.fumie@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	倉光 ミナ子 KURAMITSU Minako ☎(2612)	地域研究論 Area Studies Methodology	【文化地理学、オセアニア地域研究】最近の研究関心は、オセアニア地域研究、特にグローバル化によるジェンダーと慣習への影響、移民女性の子育てなど。主なフィールドはサモアとニュージーランド。 e-mail: kuramitsu.minako@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor **	豊福 実紀 TOYOFUKU Miki ☎(5791)	公共政策論 Public Policy	【日本政治・比較政治・公共政策】政治学の観点から公共政策の研究を行っており、とくに女性の働き方にかかわる租税政策に注目している。 e-mail: toyofuku.miki@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor **	申 知燕 SHIN Jiyeon ☎(5188)	地域分析論 Regional Analysis	【人文地理学・移民研究】国際移住による都市空間の変容に関する実証的研究を行う。主に外国人や女性、性的マイノリティなど、社会的マイノリティのトランスナショナルな移住と都市生活に焦点を当て、アメリカ・イギリス・日本・韓国の事例を分析する。 e-mail: shin.jiyeon@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor **	キャロル マйлズ CARROLL Myles ☎(5191)	グローバル資本主義論 Global Capitalism	【日本の政治経済・国際政治経済・環境学】日本を中心に、戦後以降の政治経済秩序をめぐる理論研究、社会的再生産論を含めフェミニスト政治経済理論、政治経済の観点から気候変動が資本主義社会に与える影響や課題についての研究を行っている。 e-mail: myles.carroll@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor **	脇田 彩 WAKITA Aya ☎(5794)	社会的不平等論 Social Inequalities	【社会調査法、社会階層論、ジェンダー論】社会階層やジェンダー等の属性による社会的不平等について、計量社会学の手法を用いながら研究を行う。職業とジェンダーの関連のほか、最近では地域内の社会階層と属性による格差にも注目している。 e-mail: wakita.aya@ocha.ac.jp
(教授 ◎)	小玉 亮子	ジェンダー理論文化学 Cultural Studies and Gender Theory	【ジェンダー理論・ジェンダー史・比較文化/社会史】近現代思想をジェンダーの視点から再検討すると同時に、歴史の中で、ジェンダーがどのように構築されてきたかを検討している。
(教授)	小谷 眞男	法文化論 Legal Culture	【比較法史】「生活」の比較法社会史・比較法文化史及びトランス・サイエンス論研究。特にイタリアを専門的フィールドとする。
(教授)	大森 正博	医療政策論 Health Policy	【医療経済学、医療・介護制度の国際比較】医療・介護サービス産業・制度を、経済学の視点から分析を行う。医療・介護サービス産業・制度の国際比較も行う。
(教授)	西村 純子	家族論 Family Studies	【家族社会学】家族関係の変容とそのダイナミクスに関する実証的研究。特に、仕事と家族生活、子育てに関わる現象についての社会学的研究をおこなっている。

- (注1) ◎は、2025年度末をもって退職予定の教員である。
なお、2024年度末(2025年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。
- (注2) ※は、領域代表である。
- (注3) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。
- (注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。
- (注5) ()は、他専攻の兼任教員であり、本専攻では主任指導教員にはならない。

ライフサイエンス専攻 Life Sciences			
生命科学領域 Biological Sciences			
担当教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野	
Position	Name	Main Subject	
教授 GSC Professor	植村 知博 UEMURA Tomohiro ☎(5713)	植物オルガネラ動態学 Plant organelle dynamics	【細胞膜機能学】真核細胞のオルガネラの膜ダイナミクスと生理機能を明らかにする。ライブイメージングによる観察によって研究を進める。 e-mail: uemura.tomohiro@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	加藤 美砂子 KATO Misako ☎(5293)	植物分子生理学 Plant Molecular Physiology	【植物分子生理学】植物に特有の代謝系に焦点をあて、その調節機構を遺伝子発現のレベルから解析している。特に植物の二次代謝系や脂質合成系を制御する分子機構に着目して研究を進めている。 e-mail: kato.misako@ocha.ac.jp
教授 Professor	清本 正人 KIYOMOTO Masato ☎0470-29-0838	発生機構学 Developmental Mechanics	【発生生物学】棘皮動物を材料に、初期発生における細胞の分化や形態形成のメカニズムを明らかにする。具体的には、ウニ胚の骨片形成細胞の分化における誘導因子や細胞間の相互作用について、培養系を使って研究している。 e-mail: kiyomoto.masato@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	巒田 智 SHIMADA Satoshi ☎(5356)	構造植物科学 Structure of Plant Sciences	【多様性生物学】どのような生物種がどれほどこの地球上に存在しているのか？そもそも、どうやって生物は多様化してきたのか？という生物多様性に関する素朴な疑問を明らかにしたいと考えている。 e-mail: shimada.satoshi@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	千葉 和義 CHIBA Kazuyoshi ☎(5370)	細胞・発生生物学 Advanced Cell and Developmental Biology	【細胞・発生生物学】減数分裂や受精、初期発生過程において、細胞内外の情報がどのように伝達され、発生が制御されているのかについて研究している。 e-mail: chiba.kazuyoshi@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	服田 昌之 HATTA Masayuki ☎(5579)	生物圏科学 Biosphere Science	【進化生態学】海洋動物の進化史を遺伝・生態の側面から明らかにする。サンゴ礁生物の多様性やサンゴ礁修復技術についても研究している。 e-mail: hatta.masayuki@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	宮本 泰則 MIYAMOTO Yasunori ☎(5363)	分子細胞生物学 Molecular Cell Biology	【分子細胞生物学】脳の形態形成や損傷修復過程を神経細胞やグリア細胞に着目して分子細胞生物学的に解析を進めている。特に細胞外マトリックスや生理活性脂質の作用について解明する。 e-mail: miyamoto.yasunori@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	由良 敬 YURA Kei ☎(5514)	計算構造生物学 Computational Structural Biology	【生命情報学】ゲノム塩基配列、タンパク質立体構造座標、タンパク質などの相互作用情報が膨大に収集されるようになった。これらの情報を利用して、酵素などの分子進化や生物種の適用進化などを、計算生物学的に明らかにしていくことを目指す。 e-mail: yura.kei@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	近藤 るみ KONDO Rumi ☎(5372)	進化多様性 Evolution and Diversity	【ゲノム進化・進化遺伝学】生態や行動の多様性が生じるしくみを分子レベルで理解することを目的として、ショウジョウバエをモデル生物に用いて研究している。 e-mail: kondo.rumi@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	佐藤 敦子 SATO Atsuko ☎(5377)	先端動物学 Frontier Zoological Approach in Life Science	【発生進化学】生物の発生が環境に反応してどう変化し、どう進化するのか。大量データ解析と発生進化学的手法を用いて解明する。 e-mail: sato.atsuko@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	岩崎 貴也 IWASAKI Takaya ☎(2604)	植物進化多様性科学 Plant Diversity and Evolution	【植物進化多様性科学】野生植物の多様性を形成した進化史、そして現在の多様性を維持している生態メカニズムの解明を目的として、様々な野生植物を用いた研究を進めている。特に生物の分布に着目した生物地理学をベースに研究を展開している。 e-mail: iwasaki.takaya@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor	毛内 拓 MONAI Hiromu ☎(5303)	生体応答ダイナミクス Dynamics in Biological Responses	【生体組織機能学】脳が生きているとはどういうことか？生きた脳組織が機能する基礎原理について、非シナプスの相互作用の観点から解明を試みている。 e-mail: monai.hiromu@ocha.ac.jp
客員教授 Visiting Professor	小野 弥子 ONO Yasuko (東京都医学総合研究所)	シグナル伝達機構 Biological Signaling Mechanism	細胞内の調節的タンパク質切断酵素「カルパイン」の生理機能と構造機能相関について研究している。 e-mail: ono-ys@igakuken.or.jp
客員教授 Visiting Professor	田中 啓二 TANAKA Keiji (東京都医学総合研究所)	生体防御システム Biophylaxis System	細胞内リサイクル装置であるプロテアソームやオートファジーについて分子から個体レベルまで多面的に解析し、神経細胞の恒常性を維持する機構について研究している。 e-mail: tanaka-kj@igakuken.or.jp
客員教授 Visiting Professor	正井 久雄 MASAI Hisao (東京都医学総合研究所)		【分子生物学】ゲノム複製の分子メカニズムの解明を基盤に、ゲノムの継承、安定性維持のメカニズム、その破綻によるがん細胞の形成などについて研究している。ゲノムの新しい機能シグナルとしての、グアニン4重鎖構造など、非標準型DNA構造の生物学的意義の解明も目指している。 e-mail: masai-hs@igakuken.or.jp
客員教授 Visiting Professor	丸山 千秋 MARUYAMA Chiaki (東京都医学総合研究所)		【神経発生学】脳神経回路が胎児期にどのように発生するのか、また哺乳類と非哺乳類での脳構造の違いやその進化のメカニズムについて、分子発生的、比較進化的観点から研究している。 e-mail: maruyama-ck@igakuken.or.jp
客員教授 Visiting Professor	Martin Frith (国立研究開発法人 産業技術総合研究所)	ゲノム情報学 Genome Informatics	【ゲノム情報学】コンピューターを利用した統計モデルにもとづき、比較ゲノミクスの手法を用いて、ゲノム塩基配列から機能および進化に関する情報を読み解く研究を進めている。 e-mail: m.frith@aist.go.jp
客員准教授 Visiting Associate Professor	宮岡 佑一郎 MIYAOKA Yuichiro (東京都医学総合研究所)		ヒトiPS細胞の遺伝情報をゲノム編集により操ることで、遺伝性疾患の発症機序解明と治療法開発を目指す。 e-mail: miyaoka-yi@igakuken.or.jp
(教授)	相川 京子	生体分子科学 The Structure and Function of Biomolecules	担当専攻「理学専攻」 化学・生物化学領域 糖鎖生物化学と同じ

(注1) ◎は、2025年度末をもって退職予定であり、○は2026年度末をもって退職予定の教員である。
なお、2024年度末(2025年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

(注5) () は、他専攻の兼任教員であり、本専攻では主任指導教員にはならない。

ライフサイエンス専攻 Life Sciences			
食品栄養科学領域 Food and Nutritional Sciences			
担当 Position	教員 Name	授業科目 Main Subject	研究テーマ又は研究分野
教授 Professor	GSC 森光 康次郎 MORIMITSU Yasujiro ☎(5757)	食品生理機能学 Food Functionality	【食品機能化学】近年、食品起源の生体調節機能性因子が注目され、その重要性が広く一般にも認識されるようになった。身近となった抗酸化物質から生活習慣病予防効果を示しうる食用植物由来の生理活性物質について、有機化学的・生化学的研究を中心に行っている。 e-mail: morimitsu.yasujiro@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 赤松 利恵 AKAMATSU Rie ☎(5680)	食行動学 Eating Behavior	【栄養教育学】人の食行動に関わる要因について、心理社会的観点から検討し、よりよい生活習慣を獲得するための方法を研究している。 e-mail: akamatsu.rie@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 飯田 薫子 IIDA Kaoruko ☎(5474)	栄養臨床医学・疫学 Lecture on Clinical Nutrition	【栄養代謝学、生活習慣病学】生体内における糖や脂質の代謝機構を中心に、生活習慣病との関連性から研究を行っている。 e-mail: iida.kaoruko@ocha.ac.jp
教授 Professor	須藤 紀子 SUDO Noriko ☎(5448)	国際公衆栄養学 International Public Health Nutrition	【公衆栄養学】国内外の非常時の食生活支援のための体制整備に関する研究を行っている。 e-mail: sudo.noriko@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 市 育代 ICHI Ikuyo ☎(5750)	臨床栄養学 Clinical Nutrition	【臨床栄養学】脂質の代謝異常は生活習慣など様々な疾患の発症に関わっている。病態における脂質の変動と疾病との関連について研究を行っている。 e-mail: ichi.ikuyo@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	新田 陽子 NITTA Yoko ☎(5760)	嗜好性設計学 Advanced Cookery Science	【調理科学、食品物性学、酵素学】食品物性や生理活性アミンについての研究を行なっている。 e-mail: nitta.yoko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	清水 誠 SHIMIZU Makoto ☎(5752)	応用栄養学 Applied Nutrition	【分子栄養学】運動や老化、栄養などに関わる生体内分子や機能性食品成分に着目し、これらの機能や相互作用に関する研究を行っている。 e-mail: shimizu.makoto@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	GSC 佐藤 瑠子 SATO Yoko **☎(5754)	給食品質管理論 Quality control of food service	【給食経営管理論】給食を生産する際の調理・保管過程における食品の物理的・化学的な変化を把握し、品質管理手法を提案するための研究を行なっている。 e-mail: sato.yoko@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	GSC 小林 正樹 KOBAYASHI Masaki **☎(5943)	栄養制御学 Nutritional Regulation	【基礎栄養学】栄養環境や加齢・老化が身体に及ぼす影響に関して、主に動物や細胞を用いた研究を行っている。 e-mail: kobayashi.masaki2@ocha.ac.jp
客員教授 Visiting Professor	(未定)	食品バイオテクノロジー Food Biotechnology	【食品バイオテクノロジー】食の美味しさの具現化（表現法・評価法）や食品の技術開発に関する研究。 e-mail:
客員准教授 Visiting Associate Professor	鈴木 忠宏 SUZUKI Tadahiro (農業・食品産業技術総合研究機構)	食品安全管理学 Food Safety	【食品安全管理学】カビ菌を含めた食品の安全管理に関する研究。 e-mail: suzut@affrc.go.jp
遺伝カウンセリング領域 Genetic Counseling			
教授 Professor	三宅 秀彦 MIYAKE Hidehiko ☎(5587)	遺伝カウンセリング論 Guide to Genetic Counseling	【臨床遺伝医学、遺伝カウンセリング学】出生前診断を中心とした遺伝に関わる問題に対して、遺伝カウンセリングや教育、社会啓発に関する研究を行っている。 e-mail: miyake.hidehiko@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	** 佐々木 元子 SASAKI Motoko ☎(5742)	ゲノム遺伝学 Genetics and Genomics	【遺伝カウンセリング学、遺伝教育】遺伝カウンセリング全般に対する問題と、遺伝教育や社会啓発に関する研究を行っている。 e-mail: sasaki.motoko@ocha.ac.jp

(注1) ※は、領域代表である。

(注2) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注3) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

理学専攻 Advanced Sciences			
数学領域 Mathematics			
担当教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野	
Position	Name	Main Subject	
教授 Professor	横川 光司 YOKOGAWA Koji ☎(5357)	ホモトピー数学 Homotopical Mathematics	従来の等号をベースにした数学から同値をベースとしたものへ移行したものがホモトピー数学である。ホモトピー数学により、これまで見えていなかった数学構造が捉えられる。研究テーマはこのホモトピー数学の論理的基礎づけとその幾何学への応用である。 e-mail: yokogawa.koji@ocha.ac.jp
教授 Professor	下川 航也 SHIMOKAWA Koya ☎(5310)	位相幾何学 Topology	【トポロジーとその応用】結び目理論と3次元多様体論は活発に研究が行われているトポロジーの分野である。それらの研究と、高分子科学、超分子化学、材料科学への応用の研究を行っている。 e-mail: shimokawa.koya@ocha.ac.jp
教授 Professor	萩田 真理子 HAGITA Mariko ☎(2712)	組み合わせ構造論 Combinatorial Structure	【離散数学】M系列、差集合、ブロックデザイン、符号などの離散構造の存在性についての理論研究と、グラフ彩色、疑似乱数、暗号など情報セキュリティのための離散数学の応用研究を行っている。 e-mail: hagita.mariko@ocha.ac.jp
教授 Professor	竹村 剛一 TAKEMURA Kouichi ☎(5298)	数理解析論 Mathematical Analysis	【可積分系、特殊関数】可積分系と関係する複素変数の微分方程式や差分方程式の研究を行い、特定の系に対する理解の深化などの応用を目指す。関連して、楕円関数や超幾何関数に代表される特殊関数自体の研究も行う。 e-mail: takemura.kouichi@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	戸田 正人 TODA Masahito ☎(5305)	大域幾何構造論 Global geometry	位相構造など空間の大域的性質を距離構造や複素構造などの空間上の幾何構造との関連から研究する。多様体などの位相構造の分類を行なうことを目的として、幾何構造上で展開される解析学を援用して、空間に生ずる特異性の解析を行なう。 e-mail: toda.masahito@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	久保 隆徹 KUBO Takayuki ☎(5300)	関数解析論 Functional Analysis	流体力学などに現れる現象を記述する様々な偏微分方程式に関する数学解析を行っている。フーリエ解析や、関数解析的・数値解析的な手法で現象の数学的理解を目指す。 e-mail: kubo.takayuki@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	千葉 優作 TIBA Yusaku ☎(5311)	大域解析学 Global Analysis	一変数正則関数とは異なり、多変数正則関数はハルトークス現象といった特有の性質をもつ。このような興味深い性質を、シュタイン多様体やコンパクトケーラー多様体などの幾何学的な視点から研究する。 e-mail: chiba.yusaku@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	植木 潤 UEKI Jun ☎(5309)	数理多様体構造論 Mathematical Theory of Manifolds	【数論的位相幾何学】素数と結び目、代数体の整数環と3次元多様体の類似性に端を発する様々な研究を行っている。 e-mail: ueki.jun@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor	篠田 万穂 SHINODA Mao ☎(5306)	確率解析論 Stochastic Analysis	【エルゴード理論】力学系における不変測度、とくに平衡測度や最大化測度と呼ばれる不変測度の研究を行なっている。さまざまな力学系における位相的な性質と不変測度の関連の理解を目指す。 e-mail: shinoda.mao@ocha.ac.jp
物理科学領域 Physics			
担当教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野	
Position	Name	Main Subject	
教授 Professor	小林 功佳 KOBAYASHI Katsuyoshi ☎(5314)	ナノスケール物理 Nano-Scale Physics	【メゾナノスケールの物理、表面物理】最近の微細加工技術や走査プローブ顕微鏡等の進歩により、原子やナノスケールでの物性測定や人工構造物の作成が可能になった。このスケールに特有の新たな物理現象を探る目的で理論的な立場から研究を行っている。 e-mail: kobayashi.katsuyoshi@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 出口 哲生 DEGUCHI Tetsuo ☎(5322)	非線形現象解析 Analysis of Nonlinear Phenomena	【数理論理学・物性基礎論】非線形現象は多様な自然現象の中で重要な役割を果たす。非線形性のために系は単なる部分の和でない、全体として特有の性質を示す。ソリトンの逆散乱法やペーテ仮説法などの数理論理学の手法を用いて、水面の波動、量子スピン系の厳密解、結び目と物理、高分子など幅広いテーマを総合的に研究する。 e-mail: deguchi.tetsuo@ocha.ac.jp
教授 Professor	奥村 剛 OKUMURA Ko ☎(5321)	ソフトマテリアルズ物理 Physics of Soft Materials	【ソフトマター物理・化学物理】理論と実験の両面から、ゲル、液晶、破壊、粘弾性、表面張力、濡れ、粉粒体などをキーワードにソフトマター物理学の研究をしている。場の理論、経路積分、非平衡統計力学などの手法を基礎にした、溶液の多次元レーザードیفракシオン理論もひとつの研究の柱である。 e-mail: okumura.ko@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 古川 はづき FURUKAWA Hazuki ☎(5317)	強相関物理 Strongly correlated electron system	【強相関電子系研究】強相関電子系理論という視点から、(1)空間反転対称性の破れた超伝導体LaNiC ₂ の特異電子状態、(2)重い電子系超伝導体CeCoIn ₅ の磁性と超伝導の相互関係、(3)銅を含まない酸化物超伝導体Sr ₂ RuO ₄ 系の超伝導対称性、を研究する。 e-mail: furukawa.hazuki@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 曹 基哲 CHO Gi-Chol ☎(5330)	ゲージ理論 Gauge Theory	【素粒子物理学理論】電弱相互作用、強い相互作用を記述するゲージ理論に基づき、高エネルギー領域における素粒子現象を研究する。超対称性の存在、質量の生成機構、高次元空間の可能性等を検証するための研究も行う。 e-mail: cho.gichol@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	北島 佐知子 KITAJIMA Sachiko ☎(5941)	統計物理学 Statistical Physics	【量子情報・非平衡統計力学】量子情報の理論的研究を行う。また、非平衡ダイナミクスの視点から量子系の基礎的諸問題の解明に取り組む。 e-mail: kitajima.sachiko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC 河野 能知 KONO Takanori ☎(2057)	高エネルギー物理 High Energy Physics	【素粒子物理学実験】CERNで行われている高エネルギー陽子・陽子衝突実験ATLASに参加して、最高エネルギーでの素粒子現象の測定および新粒子の探索などの研究を行っている。また半導体飛跡検出器の開発も行っている。 e-mail: kono.takanori@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	** 左右田 稔 SODA Minoru ☎(5319)	応用物性科学 Applied Condensed Matter Science	【固体物理学】磁性・強相関電子系における実験的研究を行う。磁気秩序と強誘電性が共存するマルチフェロイックの起源解明や幾何学的フラクション磁性体・低次元磁性体等における新規磁性相の探索に取り組む。 e-mail: soda.minoru@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	** 藤田 智弘 FUJITA Tomohiro ☎(5312)	宇宙天体物理学 Space and Astrophysics	【宇宙天体物理学】我々の住む宇宙で起る様々な現象を現代物理学を駆使して解明していく。特に宇宙の始まりや、その構成要素、成り立ちなどを調べる宇宙論の理論研究に重点を置き、天文観測や地上実験も援用しながら世界をリードする研究を目指す。 e-mail: fujita.tomohiro@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	** 高橋 遼 TAKAHASHI Ryo ☎(5934)	応用物理科学 Applied Physics	【スピントロニクス】スピン流を生成する、あるいはスピン流を起因・仲介とする新規物性現象の発現に向け、実験的研究を行っている。微細加工により作製した薄膜やマイクロ流路構造を用い、特に低融点金属を対象とした、力学運動が有する角運動量とスピン流の相関効果を研究する。 e-mail: takahashi.ryo@ocha.ac.jp

(注1) ※は、領域代表である。

(注2) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注3) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

理学専攻 Advanced Sciences		化学・生物化学領域 Chemistry and Biochemistry	
担当教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野	
Position	Name	Main Subject	
教授 Professor	GSC 近藤 敏啓 KONDO Toshihiro ☎(5347)	ナノ界面化学 Nano-Interfacial Chemistry	【ナノ界面物理化学・分析電気化学】電気化学反応(電極/溶液界面の電子移動反応)を定量的に理解することおよび燃料電池やセンサなどのナノテクノロジーにつながる分子デバイスを構築することを目的として、原子・分子のレベルで構造制御した界面を構築し、電子移動反応を加速するとともに、界面の構造変化をその場追跡する。 e-mail: kondo.toshihiro2@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 森 義仁 MORI Yoshihito ☎(5346)	複雑系分析化学 Analytical Chemistry of Complex Systems	【非平衡系化学】非線形領域の非平衡系の現象として特有のリズムまたはパターン形成の動的特徴の解析を実験または数値解析を用い進める。非平衡化学の応用として自然環境問題を取り上げる。 e-mail: mori.yoshihito@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 相川 京子 AIKAWA Kyoko ☎(5345)	糖鎖生物化学 Glycobiology	【糖鎖生物学、細胞生化学】糖鎖修飾によるタンパク質の細胞内局在や分泌性、生体活性の調節機構の解析と、レクチンの生体機能の探索を行う。 e-mail: aikawa.kyoko@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 棚谷 綾 TANATANI Aya ☎(2716)	超分子構造化学 Advanced Supramolecular Chemistry	【構造有機化学・医薬化学】芳香族有機分子の立体特性や集合体形成を基盤として、新規機能性分子を創製する。また、生体活性物質の設計、合成へと応用し、疾患治療を目指したケミカルバイオロジー研究をおこなう。 e-mail: tanatani.aya@ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 矢島 知子 YAJIMA Tomoko ☎(5715)	機能性有機化学 Functional Organic Chemistry	【合成有機化学・有機フッ素化学】新規有機合成法を開発し、その手法を用いて合成した化合物の機能の探索を行う。特に有機フッ素化合物に着目し、医薬品、機能性有機材料等への応用を目指す。 e-mail: yajima.tomoko@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC 宮崎 充彦 MIYAZAKI Mitsuhiro ☎(5717)	分子分光化学特論 Molecular Spectrochemistry	【物理化学、分子分光学】分子間の凝集構造の解明、分子運動・化学反応のダイナミクスについて、分光測定を主たる手段とした実験的研究を行う。複数のレーザー光を利用した電子・振動分光、時間分解分光を気相分子クラスターに適用し、理論計算も援用しつつミクロな視点から化学現象の解明を目指す。新たな分光法、光源の開発など新規研究手法の開発にも取り組む。 e-mail: miyazaki.mitsuhiro@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC 近松 彰 CHIKAMATSU Akira ☎(5335)	固体物理化学 Physical Chemistry of Solids	【固体物性化学、固体反応化学、機能材料化学】原子レベルで制御する結晶成長法に様々な化学反応を組み合わせて、新しい機能物性を持った固体物質を創出する研究を行う。また、先端分析技術や理論計算を活用し、化学反応機構・物性発現機構を解明する研究にも取り組む。 e-mail: chikamatsu.akira@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC 伊村 くらら IMURA Clara ☎(5291)	ナノ構造材料化学 Nanostructured Material Chemistry	【機能性ナノ材料、コロイド・界面化学】界面化学の視点から、触媒材料、光学材料へとつながる金属ナノ結晶の形態制御とその機構解明を行う。さらに、分子間相互作用にもとづく低分子化合物とのハイブリッド材料を構築し、分野横断的なアプローチからの新規な機能性開拓にも積極的に取り組む。 e-mail: imura.clara@ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC 三宅 亮介 MIYAKE Ryosuke ☎(2649)	構造分子科学 Structural Molecular Science	【錯体化学・超分子化学】金属錯体をデザインし、さらに構造変換に基づき物性変換することにより省エネルギー・高効率の機能創出を目指しています。分子レベルでの観測・理解に基づいて、精密な機能設計・制御を行います。特に構造特性やデザイン性に着目してペプチド金属錯体結晶を軸に研究を進めています。 e-mail: miyake.ryosuke@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	GSC 大金 賢司 OHGANE Kenji ☎(5731)	細胞機能化学 Cellular Biochemistry	【ケミカルバイオロジー・生命科学】ユニークな生体活性を有する低分子化合物の探索を通して、生命現象を分子レベルで理解し、制御する方法の開発を目指す。 e-mail: ohgane.kenji@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	GSC 桑原 拓也 KUWABARA Takuya ☎(5350)	物理有機化学 Physical Organic Chemistry	【典型元素化学・有機金属化学】典型元素の特性を活かした新奇芳香族・反芳香族化合物の合成と性質解明に取り組む。また、高価な遷移金属にのみみられない反応性や触媒反応を安価な典型元素化学種でも実現させることを目指す。 e-mail: kuwabara.takuya@ocha.ac.jp
助教 Assistant Professor	GSC 黒木 菜保子 KUROKI Nahoko ☎(5347)	複雑系分析化学 Analytical Chemistry of Complex Systems	【理論化学、計算化学、溶液物理化学】機能性溶液の性質を理解するための分子シミュレーションを推進しています。溶液内のエネルギーや電子状態のゆらぎを可視化し、環境化学や生命科学を支える分子挙動の解明や新材料の開発を目指しています。 e-mail: kuroki.nahoko@ocha.ac.jp

(注1) ◎は、2025年度末をもって退職予定の教員である。
なお、2024年度末(2025年3月31日付)で定年退職予定の教員は記載されていない。

(注2) ※は、領域代表である。

(注3) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注4) *印の教員は、主任指導教員として志望できない。

理学専攻 Advanced Sciences		情報科学領域 Computer Science	
担 当	教 員	授 業 科 目	研 究 テ ー マ 又 は 研 究 分 野
Position	Name	Main Subject	
教授 Professor	GSC 小口 正人 OGUCHI Masato ☎(5379)	情報ネットワーク論 Information Network	【ネットワークコンピューティング】ネットワークにより接続された種々の計算機資源を互いに連携させ、高度なデータ処理を行うためのネットワークコンピューティング・ミドルウェアの研究を行う。 e-mail: oguchi@is.ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 浅本 紀子 ASAMOTO Noriko ◎ ** ☎(5382)	コンピュータ援用論 Computer Aided Instruction	【情報数学】自然や社会の現象の解析において計算機を使ったアプローチを行う。数式処理系の現象理解への応用や、知識獲得の過程における計算機による支援を研究する。また教育現場とくに遠隔教育での計算機やネットワークによる支援を研究する。 e-mail: asamoto@is.ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 小林 一郎 KOBAYASHI Ichiro ☎(5708)	知能情報処理論 Advanced Intelligent Information Processing	【知能情報処理、言語情報処理】近年、知的といわれるコンピュータシステムをつくるのに、言語など様々なモダリティがメディアとして活用され、その役割が大きくなってきている。本講義では知的な情報サービスを実現するために言語を中心とするメディアがどのように表現され、知的な情報処理として利用されるのかについて考察する。また、Web上などで実現されている意味を対象にした情報処理技術についても議論する。 e-mail: koba@is.ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 伊藤 貴之 ITO Takayuki ☎(5700)	画像情報論 Visual Informatics	【情報可視化】情報を画面上でビジュアルに表現する諸技術について研究する。具体的な適用事例として、科学技術や社会現象の理解、機械学習やデータサイエンスの支援、画像・音楽・文章などの各種メディアの対話的分析などを目的とした情報可視化について研究する。 e-mail: itot@is.ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 浅井 健一 ASAI Kenichi ☎(5388)	プログラム変換論 Program Transformation	【プログラミング言語】部分評価を始めとするプログラム変換、部分継続の理論と応用、型理論、プログラムの正当性の証明、自己反映言語など、おもに関数型言語に軸をおいたプログラミング言語の理論と応用について研究を行っている。 e-mail: asai@is.ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 戸次 大介 BEKKI Daisuke ※ ☎(5378)	情報構造解析論 Advanced Applied Analysis	【数理言語学】自然言語の、主に統語論、意味論、語用論に対して、記号論理、ラムダ計算、圏などの数理論理的アプローチを用いた分析を行っている。 e-mail: bekki@is.ocha.ac.jp
教授 Professor	GSC 工藤 和恵 KUDO Kazue ☎(5380)	量子情報科学論 Quantum Information Science	【量子コンピューティング、統計力学】量子コンピュータまたはイジングマシンを利用した計算による研究、および量子ダイナミクスの研究を行っている。 e-mail: kudo@is.ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC 五十嵐 悠紀 IGARASHI Yuki ** ☎(5398)	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション論 Human-Computer Interaction	【ヒューマンコンピュータインタラクション、グラフィックス】人間とコンピュータの対話手段であるHCI技術について、生活空間で誰もが利用可能な未来のコンピュータのあり方を研究する。また、グラフィックス表現を用いた初心者のための支援技術についても研究する。 e-mail: yuki@is.ocha.ac.jp
准教授 Associate Professor	GSC LE Hieu Hanh LE Hieu Hanh **	データ管理活用論 Data Management and Application	【データ管理活用論】多種大量なデータを蓄積し有効に活用することが求められる中、信頼性の高いデータ格納方法や高速なデータ処理および高度なデータ分析等を実現するために、データ管理活用に関する研究を行う。 e-mail: le@is.ocha.ac.jp
講師 Lecturer	GSC オベル加藤 ナタナエル Nathanael AUBERT-KATO ** ☎(5773)	分子ロボティクス論 Molecular Robotics	計算能力を持つ化学反応ネットワークのシミュレーションと分析を行なっている。また、そういうシステムの設計のため、進化的戦略アルゴリズムを研究している。 e-mail: naubertkato@ocha.ac.jp
講師 Lecturer	GSC 長尾 篤樹 NAGAO Atsuki ** ☎(5384)	計算複雑性理論 Theory of Computational Complexity	【計算量理論、アルゴリズム論】我々の生活に存在する実問題の多くは離散的なモデルで表現することができるが、それらの最適解を現実的な計算リソースで求める事が難しい場合がほとんどである。解決という行為が、扱う問題や使用可能な計算資源によってどのような違いがあるのかを解析し、また、特定の問題に対してより効率的なアルゴリズムの開発、その理論的保障の解析を行う。 e-mail: a-nagao@is.ocha.ac.jp
講師 Lecturer	GSC 神山 翼 KOHYAMA Tsubasa ** ☎(5384)	気象数理論 Mathematics in Meteorology	【気象学・物理気候学・大気海洋データ解析】地球の気象・気候の現在の姿とふるまいはどのように決定されているのかについて、特に応用数学・情報科学的視座から明らかにすることを目指す。 e-mail: tsubasa@is.ocha.ac.jp
[准教授]	北島 佐知子	非可換解析論 Noncommutative Analysis	理学専攻 物理科学領域 統計物理学と同じ

- (注1) ◎は、2025年度末をもって退職予定の教員である。
なお、2024年度末（2025年3月31日付）で定年退職予定の教員は記載されていない。
- (注2) ※は、領域代表である。
- (注3) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。
- (注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。
- (注5) []は、他領域の兼任教員である。

【参考】生活工学共同専攻を志望する者は、「生活工学共同専攻学生募集要項」（別冊子）で出願すること。

2024年6月1日現在

生活工学共同専攻		☎ 03-5978- (下記☎参照)	
担当教員	授業科目	研究テーマ又は研究分野	
Position	Name	Main Subject	
教授 GSC Professor	太田 裕治 OHTA Yuji ☎(5739)	生活支援工学 Life Support Engineering	【人間工学】我々の生活と直接関連する生活支援機器、高齢者支援機器、人工臓器等の医用福祉機器の開発に関する工学的基礎研究を行う。生体システムを深く解析すると同時にシンセシス（設計）と技術評価に重点をおきつつ研究を進めている。 e-mail: ohta.yuji@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	大瀧 雅寛 OTAKI Masahiro ☎(5748)	環境衛生工学特論 Environmental Sanitation Engineering, Advanced Course	【環境工学】安全で快適な生活環境を確保するために、環境因子（主に水環境）が人間に与える様々な影響を評価する方法、及びそれらを管理制御する技術について工学的に検討、研究を行う。 e-mail: otaki.masahiro@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	元岡 展久 MOTOOKA Nobuhisa ☎(5585)	建築設計学 Architectural Design	【建築意匠論】建築は何を表現するのか？様々な建築の実例を通じて、建築形態を分析し、設計の意図ならびに方法を研究する。 e-mail: motooka.nobuhisa@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	長澤 夏子 NAGASAWA Natsuko ☎(5743)	建築環境論 Architectural Planning Theory	【建築人間工学】都市や建物の利用者および環境にやさしい建築をつくるために、人間の生活、行動や身体とそれを取りまく環境について工学的なアプローチで、建築空間の設計の根拠を提示する研究をおこなう。 e-mail: nagasawa.natsuko@ocha.ac.jp
教授 GSC Professor	近藤 恵 KONDO Megumi ☎(2551)	生活環境史特論 Living Environment History, Advanced Course	【自然人類学】ヒトの生物としての特徴を理解するため、現生の生体人類だけでなく、化石人類も研究対象とする。ヒトの身体に対する理解をより深め、それを踏まえて生活における身体に関わる諸問題について研究する。 e-mail: kondo.megumi@ocha.ac.jp
准教授 GSC Associate Professor	河合 英徳 KAWAI Hidenori ☎(5917)	居住空間環境学特論 Residential Space Environmental Science	【建築環境工学】建築の内外に形成される微気象（主に熱環境、風環境）を数値解析や観測により明らかにしながら、頻発する極端気象や気候変動に適応した生活空間の環境設計手法やその評価技術に関する研究を行う。 e-mail: kawai.hidenori@ocha.ac.jp
准教授 GSC Associate Professor	トリベッテ ジュリアン TRIPETTE Julien	身体行動・健康論 Physical Behavior and Health Theory	【健康・運動科学】非感染性疾患を防ぎ健康寿命を延ばすことで生活の質を向上させることを目的とし、ウェアラブルセンサーなどを使用して、行動の認識または身体活動量の評価方法等の新しい手法について研究を行う。 e-mail: tripette.julien@ocha.ac.jp
准教授 GSC Associate Professor	藤山 真美子 FUJIYAMA Mamiko ☎(5477)	デザイン工学論 Design Engineering Theory	【都市・建築デザイン学】都市・建築空間を構成する自然、技術、生活等の重層的構造について検証を行うとともに、次世代社会における都市・建築デザインの可能性について工学的理論と芸術的感性の総合的視点から研究を行う。 e-mail: fujiyama.mamiko@ocha.ac.jp
准教授 GSC Associate Professor	秋元 文 AKIMOTO Aya	先端医療材料工学特論 Advanced Medical Materials Engineering	【生体材料工学】医療現場や基礎医学・生物学の研究現場で活用できる生体材料の創製を目的として、構造-物性相関解析を基盤とした高分子材料の機能化を行う。 e-mail: akimoto.aya@ocha.ac.jp
講師 GSC Lecturer	土田 修平 TSUCHIDA Shuhei ☎(5242)	エンターテインメントコンピューティング特論 Special lecture of entertainment computing	【情報工学、ヒューマンコンピュータインタラクション、計算機工学】 e-mail: tsuchida.shuhei@ocha.ac.jp

(注1) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。

(注2) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。

○お茶の水女子大学交通案内

【JR 池袋駅から】

- 東京メトロ丸ノ内線 「新宿、荻窪方面行」茗荷谷駅下車 徒歩約7分
- 東京メトロ有楽町線 「新木場方面行」護国寺駅下車（5番出口） 徒歩約8分
- 都営バス-都02乙 「東京ドームシティ(一ツ橋)行」大塚二丁目下車 徒歩約1分

【JR 東京駅 又は JR 御茶ノ水駅から】

- 東京メトロ丸ノ内線 「池袋方面行」茗荷谷駅下車 徒歩約7分

【JR 大塚駅から】

- 都営バス-都02 「錦糸町駅前行」大塚二丁目下車 徒歩約1分

